

保育おおさか

No. 443

平成 24 年 7 月 1 日

発行人 永野 治男 編集人 齊藤 和正

大阪市中央区中寺 1 丁目 1-54

TEL.06-6762-9001 FAX.06-6768-2426

<http://www.ans.co.jp/u/osakahtoiku/>

新しくなった地域貢献支援員 養成研修スタート

(スマイルサポーター)

育児相談員の認定を受けるための必須研修である「第一期研修」が、6月
からスタートしました。

カリキュラムの改訂に伴い、受講定員を大幅に増やしたこともあり、申し込
みいただいた209カ園の249人すべての方に参加いただくことができました。
6月は10日間あるカリキュラムのうち、1日目と2日目が開催されました。

「保育の動向と子育て支援課題」の
テーマで、関西大学人間健康学部教
授の山縣文治氏が講演。



山縣 文治氏

子育て支援は
マイナス1歳から

保育所の移り変わりにつ
いて、これまで15年ごとに
変化があったことを説明。
1960年からの15年間
は、保育所が急増した時期
で、1975年以降は休日
保育や延長保育など基本利
用者の上乗せメニューがス
タートした15年間でした。
1990年からは一時保
育、園庭開放など、日頃は
保育所を利用していない家庭・子
ども向けのメニューが誕生しました。
山縣氏は、これからの15年は幼保
の再編成時期であると指摘。「今日で
は保育に欠ける子どもだけでなく、
全て子どもを視野に入れた体制づく
りが必要となっている」「子育て支
援は、出産後ではなく、マイナス1
歳(出産前)からの支援が大事」と
話されました。

3分の1の 保護者が孤立



山野 則子氏

「相談事例を通じて知る―家庭福
祉の状況」のテーマで、大阪府立大
学人間社会学部教授の山野則子氏が



山野先生(中央)と事例を検討する様子

講演。

現在の親の実態について、調査結
果から説明。約3分の1の保護者が
「近所で赤ちゃんのことに話をして
る人がいない」と回答している
ことを紹介し、孤立している中で子
育てをしており、人とのつながりを
求めていると話されました。また、
育児負担感が不適切な養育につな
がる関係性について、「保育園は(孤
立する)3分の1の層に対して幅広
く、アプローチできる。保育士から
保護者に積極的にアプローチするこ
とで負担感が減り、不適切な養育の
防止につながる」と保育園への期待
も述べられました。

また、課題のある事例への対応、
仕組みづくりについて、相談やつな
ぎを行う関係機関の「強み(できる
こと・してもらえること)」と「弱
み(できないこと・してもらえない
こと)」を知っておくことの重要性を
強調されました。



♪雲は湧き光
溢れて天高く純
白のたま今日ぞ
飛ぶ…お馴染み
全国高校野球選
手権大会歌の歌
い出しである。

高校野球経験者なら誰もが目
指した甲子園。厳しい練習に耐
え、試合に勝ち続けたチームの
みが勝ち取る場所である。とは
いえ、私が甲子園で活躍したか
といえ、そうではなく、ただ
の野球好きであり、永遠のあこ
がれの場所でもある。

7月には地方予選が始まり、
我が母校の野球部を応援する。
これが楽しみなのである。この時
だけはあの頃の熱い気持ちを思
い出す。実際に球場に行つて応援
する場合もあるが、新聞紙面で
結果を知ることが多い。それを見
て一喜一憂し、単純に野球好きの
オヤジになってしまうのである。

しかしながら、今年の夏は
ちよつと違う。野球部に所属す
る息子が高校2年生になり、ベ
ンチ入りが叶えば、応援の優先
順位が我が母校から息子へと変
わるのである。勝手なものだと
思いつつ、野球好きから親バカに
なり、その力を発揮するのであ
る。息子よ、♪ああ栄冠は君に
輝く…

多様な課題に対して調査・研究

保育部会調査研究委員会

これまでも、第三者評価や労務管理研修、よい子ネットなどについて調査研究委員会の活動を、この紙面でご報告させていただきました。今回は、新年度の調査研究委員会の活動について紹介したいと思います。

あらたに2つのグループが始動

調査研究委員会は、委員会全体での活動とともに、委員会内に小グループを設け、多様な課題に対して調査・研究ができる体制としています。これらの小グループ編成は毎年、課題や状況に合わせて見直されています。今年度については新たに2つのグループが設けられました。その各グループの活動内容についてご紹介いたします。

(新) SIDS啓発G

乳幼児突然死症候群による事故の予防に向けての啓発活動を目的に、啓発DVDの作成を目標に活動します。

(新) 保育運営G

次世代の保育をとりまく制度や環境を見据え、今後求められる保育園像を模索する活動を進める予定です。

引き続き活動を行うグループ

資料編纂G

市町村等へのアンケートによって就学前児童数や各市町村の補助金制度などを調査した資料集の発行を進めています。

保育おおさかとの連携G

調査研究委員会の活動はこの紙面などを通して伝えたいと思います。紙面で活動を報告することによって、グループ活動自体の活性化も目指しています。

グループ名
資料編纂グループ
保育おおさかとの連携グループ
よい子ネットサポートグループ
労務管理研究グループ
(新) SIDS啓発グループ
(新) 保育運営グループ

よい子ネットサポートG
年々、機能が向上していくよい子ネットのシステムを各保育園でさらに活用してもらえようという啓発活動を進めています。

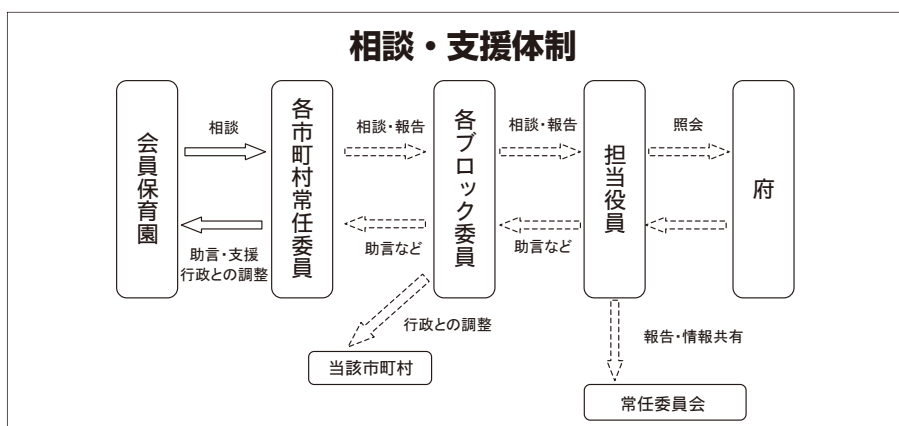
労務管理研究G

労働関連の法令に対応できるような労務管理の研修を企画、実施していきます。

本年も実りの多い活動となるように、調査研究を進めていきたいと考えます。(調査研究委員会H・S)

より良い保育を目指し、相談・支援体制を構築

—権限移譲に対する取り組み



「大阪発『地方分権改革』ビジョン」に基づき、平成22年度から特例市並みの権限事務の移譲が行われていきます。平成23年度までに6市4町1村が移譲。中核市に移した豊中市は4月から移譲済みで、今年度11市1町が移譲される予定です。今後、権限移譲が進展する

の中で、各市町村間での指導内容・指導基準の相違点や、指導・監査などに対する疑問などが増えることが想定されます。法人・施設における混乱や保育の質の低下を招かないよう、またより良い保育内容を目指して、監査などの問題に対応する委員を各

ブロックに新たに設置し、各市町村・各ブロック単位での相談・支援体制づくりを行います。

会員保育園については、まず保育部会の各市町村常任委員にご相談ください。各常任委員より助言・支援行政との調整などを行います。常任委員が対応（解決）できなかった件については、各ブロック委員に相談・報告します。また各ブロック委員で対応（解決）できなかった件は、部会の担当役員に相談・報告し、必要があれば大阪府への照会などを行います。

経営者部会

「権限移譲検証WG」との連携

今回の体制の中で位置づけられている担当役員を中心に、経営者部会の中に設置された権限移譲検証ワーキング（以下、検証WG）との連携を行っていきます。この検証WGは、府と府社協、法人代表の三者で構成されており、円滑な権限移譲を実現するために、定期的に意見交換と協議を行っていく予定です。

平

成23年度春、高槻市南部地域に開園の深沢ガーデン保育園は、住宅地が整備される中、田畑や淀川河川敷公園など自然に恵まれた環境の中にあります。

保育園の隣にあるハーブ園には、季節の花やハーブが咲き、子どもたちは緑の中でのびのびと遊んでいます。自然豊かでメダカやヤゴが観察できるそうです。また、毎年春にペアの力モが朝夕とやってきて、スイスイ泳ぐ姿やヨチヨチと散歩する姿に子どもたちは大興奮。

保育園方針に「輝いて共に生きる。元気な子どもと共に成長しよう」とあります。世代間交流も大切にしておられます。隣接する老人保健施設の方々と色々な行事に親しみ、芝グラウンドでの秋の運動会は、おじいちゃん・おばあちゃんたちの声援に子どもたちも大喜び。皆さん褒め上手で、子どもたちは自分から交流を求めていくそうです。

「心をひとつにして、地域ぐるみで子どもたちを育て、見守ることが大切。大人も子どもも共に認め合い、共に成長していくような環境づくりに努めています」と、園長の武貞小百合

季節の花と緑の中でのびのび 共に成長できる環境づくり

多彩な行事通して世代間交流
病後児保育で地域子育て支援

高槻市

深沢ガーデン保育園



子どもたちが大好きなカモさんたち♪



保育園の正面玄関

開園してわずかですが、「地域に認められる園として、保育者と保護者が協力し、安全な保育を提供していきたい」と園長先生が力強く語っておられました。

(編集委員M・K)

先生は話されます。

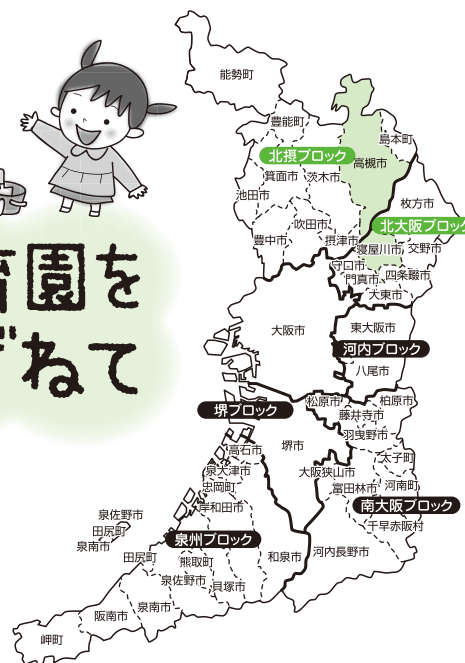
子育て支援事業として、児童福祉委員会を中心にさまざまな情報を保護者に提供されています。また、病後児保育も開設され、病気で不安な子どもたちを大切に保育されているのも特徴の一つ。

開園してわずかですが、「地域に認められる園として、保育者と保護者が協力し、安全な保育を提供していきたい」と園長先生が力強く語っておられました。



保育園を
たずねて

450



寝

屋川なかよし保育園は、京阪電車寝屋川市駅から西へ徒歩十数分にある定員90人の保育園です。併設の第2保育園は夜間保育園で定員45人です。

乳児の保育担当制を20年以上前から導入し、長い時間をかけて職員への指導と改善を重ね、定着させてこられました。

平成17年に園舎建替えを行い、部屋の形状や設備の配置を配慮し、より良い環境へと整備されました。

担当制の充実には保育士の教育が重要であり、保育



乳児さんの保育室をパチリ

方針にある「一人ひとりを大切に」や保育士のあるべき態度として「丁寧な保育」を心がけるよう力を入れておられます。

幼児の保育では年間3回、1週間ずつ異年齢交流保育を実施されています。3〜5歳児から一人ずつでグループを構成してあります。担当制によるグループ保育をくり返し経験すること、その中でスムーズに交流が図られ兄弟のようになります。

長年行われているこの取り組みの中で、年中・長児の多くが、異年齢児との交流を経験しており、自分なりに交流の仕方を見つけ、楽しんでいきます。

こうした保育によって育まれたことを土台に、自立

成果あげる乳児の保育担当制 一人ひとり大切に丁寧な保育

異年齢交流保育を楽しむ
集団生活に慣れ育ちを応援

寝屋川市

寝屋川なかよし保育園・第2寝屋川なかよし保育園



異年齢児みんなでよ〜いドン！

を促し、集団生活に慣れながら育ちを応援しています。さらに、異年齢グループによる運動会の競技があり、保護者には大変好評です。

(編集委員J・H)

自然と身につく感謝の心 音楽・英語・体力づくり

遠足・運動会・お泊まり保育
3力園合同の年間行事

東大阪市

若宮森の子保育園



新園舎

近くには生駒山や枚岡公園があり、マラソン大会・ハイクング・たけのこ掘り・園内のラグビー大会など、体力づくりにも積極的に取り組んでおられます。専門の講師を招いてキッズビーク

東 大阪市の東部、工場跡地に住宅などができ、子どもの増加によって保育所の新設が求められ、若宮・西若宮保育園に次ぐ三つ目の保育園として、若宮森の子保育園は平成22年に開設。お寺の裏にあり、周辺は住宅で囲まれた閑静なところです。

若宮保育園の分園として建てられた棟と、今回新設された新園舎の2棟で構成されています。園舎に入ったところに「合掌童子像」があります。



合掌童子像

自然や地域の環境を最大限活用し、子どもたちのために、日々努力されておられる様子が印象的でした。

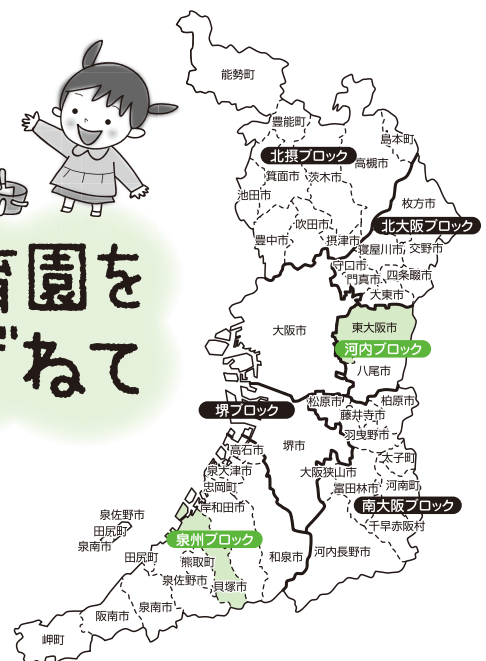
(編集委員K・M)

遠足や運動会、お寺の本堂でのお泊まり保育などの年間行事は3力園合同で開催。各園で独自の取り組みも行われています。卒園前には滋賀の箱館山へ雪遊びに行ったり、卒園記念参拝に京都の知恩院へも行かれます。



保育園を
たずねて

451



JR阪和線と泉橋本駅近くにある貝塚南保育園は1975年に90人定員で開園、2000年より全面改築され、現在は120人定員です。

周辺には神社仏閣、古墳、田畑等様々な自然に囲まれ、虫探し、落ち葉・どんぐり拾いなど自然に1年中触れる事ができ、子どもたちはその中でびのびと育っています。



異年齢交流で作ったドレス!!
すてきでしょ♪

子どもたちが自分で遊びを選ぶ楽しさや異年齢児との交流から生まれる思いやりの気持ち、育つよう保育に取り組んでいます。

(編集委員N・N)

5歳は遊びを通して子どもたちのペースで言葉・文字・数・音楽・運動などが自然に身につくよう総合的な保育をされています。



保育園の上空写真

虫探し、落ち葉・どんぐり拾い
自然の中で育つやる気・元気

楽しみながら基本的生活習慣
子どもが選べるシブリング活動

貝塚市

貝塚南保育園



高校生との交流

三原台保育園は、地域へ向けた活動の充実を開設時から心がけて取り組んできました。

保育園の立場から「生涯にわたり関わっていくことができる活動」を模索し、実行していくというのが、その基本的な考え方です。

三原台保育園が、「地域



● 保育園がつくるコミュニティ ●

地域とのコミュニケーション ツールとして活用される活動

—三原台保育園(堺市)—



正座から始まります(3歳児)

における人の育ちの場」として展開している一例で、ご参照いただければ幸いです。

卒園後も和の文化を継承

当園は、平成13年の民営化開設時から、太鼓、なるこ、武道の「なぎなた」な



現在の課内活動のようす(4歳児)

ど、和の文化を課内活動として取り入れています。

子どもたちは、その活動を通して、楽しみながら礼儀や集中力を養い、また身体機能も育んでいます。こうした活動の中で感じ、また考えることは、「他の活動と同じように、それぞれの活動が、卒園後も継続されるためには、どうすればいいのか?」という課題でした。

そこで、地域の社会資源を活用しようと、近隣の小中学校と交渉を行い、さまざまな条件のもとでも、実施可能な範囲で連携を図り、子どもたちの卒園後も、継続が可能な環境を整えることができました。

現在、小学校3校の協力を得て、体育館をお借りし、「地域の健全育成活動」の



開設当初の5歳児

一環として「なぎなた」を行い、保育園以外の活動拠点の一つとして展開しています。

会場では、「なぎなた」を通じて交流を深めるため、保育園に直接関係する方だけでなく、広く市内・市外からも、老若男女を問わず、毎回多数のご参加をいただいているところです。

**幅広い
保育園の仕事**

園外にも展開するこうした活動は、認知度はまだまだ低く、「保育園がこんなことまでやってくれるのですね」という声を耳にすることもあります。

「保育園の仕事は幅が広く、こうした活動もその一環として考えています。何

皆さんご存じの通り、平成24年度から中学校の教科目に「武道」が導入され、話題となっているところで、当園が取り組んでいることは、それにもつながることができると先駆的な取り組みであったと振り返り、地域との関係づくりにもより一層の励みとして注力していきたいと考えています。

このことだけを聞けば、「保育園と何の関係があるのか?」と疑問に思われる

中学校「武道」科目 につなげる

でもできるわけではありませんが、できる範囲で頑張ります」と自信を持って答えられるように心がけています。



年に2回の交流会

かもしれませんが、冒頭に述べたとおり、保育園が「地域における人の育ちの場」をどのように展開していくのか? という視点で見るとき、「保育園で取り組んでいる課内活動の延長であり、活動場所と対象年齢の幅が広がっただけ」ということに気づいていただけると思います。

他の活動にも 連動する広がり

結果として、これらの取り組みが起点となり、その他の活動にも連動することができます。在園児だけにとどまらず、地域の子育て支援にもつながります。

さらに、異年齢交流や健全育成、生涯学習、地域交流などの要素が盛り込まれた「地域とのコミュニケーション」として、保育園の「活動」が活用されることにもなります。

子どもたちの育ち(人の育ち)に少しでも関わることでできるよう、これからも、保育園の「活動」に工夫と努力を重ねていきたいと考えています。

(三原台保育園T・S)

北大阪

最少投資で
最大効果の食育

― 北大阪ブロック総会

6月4日、ホテルモントレラ・スール大阪にて平成24年度北大阪ブロック総会が開催され、121園から約70人が参加しました。

東口房正会長が、事業計画に関連して挨拶し、保育の新システムを子育てを中

心に捉えた制度にすべく、私たちの願いを一つにして、子ども子育て会議への意見発信をしていくことの重要性を強調されました。



坂本 寛子氏

研修会では、坂本寛子先生（サカモトキツチンスタジオ主宰）が「生きる力を

育てる食育」と題して講演。真面目にマニュアル通りの子育てをしようと一生懸命な母親が増える中、緊張度の高い食卓が「食べる」ことがイヤ、つらい！という子どもたちを増やしている。料理Ⅱ「体感食育」で、子どもたちは本物の体験をし、生きる土台の判断力と段取りを組む力を身につける。自分の食べる物を自分で作れた自信は自尊心を育む。自尊感情を育てるために「最少投資で最大効果」のあるのが食育―と



熱心に聞き入る参加者

の指摘が印象的でした。

懇親会では坂本先生も交え、大阪の街並みを一望できる会場で、終始和やかな雰

河内

虐待を
なくすには

― 八尾私立保育士会研修

6月14日、八尾商工会議所に島田妙子さん（例イージェット代表取締役）を講師に招き、研修会が開催されました。



島田 妙子氏

島田さんは、虐待をされる子どもも虐待をする大人の心も救いたいとの思いから講演活動を続けておられます。島田さんは幼少期、継母と実父による虐待を受け、結婚後も自閉症の息子、義



坂本先生(右から2番目)を交えた懇親会

父の介護の体験など、自身の人生を話された後、「子どもを救うだけでなく、虐待をなくすにはどうすればいいか?」「まっすぐに生きていれば何事も乗り越えられる」など熱く語られました。

島田さんの壮絶な実体験を聞いた参加者の中には、涙を流して真剣に聞き入る人もいました。

保育園においては、虐待や子どもたちの日常の変化を察することは、園児と日々関わる保育士こそができる、またその役割があることを改めて認識しました。

保護者の「心の悩み」を聞き、子育てを手伝い、悩みを共有していきたいと思いましたが、行政からも参加していただき、有意義な研修会でした。（若竹保育園A・M）



真剣に聞き入る参加者

旬
もうすぐ梅雨明け、夏行事

先方が気に入るそうなお中元

七月お中元の準備。この習わしはお歳暮と並んで日頃お世話になっている方に感謝の意を込めて贈る。モノは先方が気に入るようなモノを選んで贈る。私には否べえと見て、飲料水の類が多い。

昨年私の料理好きを知ってか、お歳暮に真昆布、お中元にどんこの椎茸を頂いた。久々の椎茸昆布になった事は言うまでもない。なかなか旨い佃煮になり、その方にお裾分けをし、大変お褒めを頂いた。頂いたお返しに困る事もしばしばであるが、その昔感

動した事一つ、冬に日本水仙が沢山咲いたのを、手土産代わりに持参した。10日ばかり後に立派な額縁に入った水仙の絵!! なつ何と粹なお返し。重谷洋壽先生である。氏は絵画・川柳

家に掲げている。さあもうその内に梅雨も明ける、プールに夏の行事の準備。紫外線が良くないとかで、役所からは何らかの遮光措置を。ヨシズが一番だが、ダイオネットが手

ナゴ専門店の仕事場を覗いた、蒸しアナゴが平たくなる様に仕掛か。夏野菜のシーズン、漬物が口あたりがよろしい。糠床は暑さに弱いから、冷蔵庫に出し入れしながら漬ける。今年はキュウリが豊作、水なすもその内に泉南から届くやろ。お返しには、冬に漬けたこうこの大名煮。お茶漬けがたまらんな。川崎会に伝説になりつつある牛スジカレーを! リクエストが有り牛タンも入れて。ん!! 米が足りなかった! (H・N)